

## 会 議 録

会議名 (審議会等名)		相模原市精神保健福祉審議会				
事務局 (担当課)		精神保健福祉課 電話042-769-9813(直通)				
開催日時		平成31年1月25日 午後7時～午後8時45分				
開催場所		ウェルネスさがみはら7階 視聴覚室				
出席者	委員	13人(別紙のとおり)				
	その他	2人(精神保健福祉センター所長 他1人)				
	事務局	8人(福祉部長、精神保健福祉課長 他6人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	1人
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
会議次第		審議会 1 あいさつ 2 議題 (1) 依存症対策について 3 報告 (1) 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築推進について (2) 措置入院者等の退院後支援の実施状況について (3) 相模原市ひきこもり支援ステーション開設後の実施状況について 4 その他 (1) 北里大学病院への北里大学東病院機能の移転・統合について				

## 審 議 経 過

福祉部長、宮岡会長のあいさつに続いて、会長により次第に沿って議事が進行した。主な内容は次のとおり。( は委員の発言、 は事務局等の発言)

### 議 題

#### ( 1 ) 依存症対策について( 資料 1 )

事務局より資料に基づき説明。

相談拠点を作るということで、精神保健福祉センターに相談員が 1 人増員されるということによいか。

また、資料に一次予防から行うと記載があるが、0 次予防から行っていく必要があると考える。0 次予防は国レベルで販売規制等の取組を行うものと考えているが、0 次予防として市レベルでこういった取組が行えるか伺う。

相談員はひとり専属で置くのではなく、関係機関との連携を担うことが役割であることから、必要な支援内容等により、精神保健福祉センターの職員や専門医、ときには回復した当事者の方にも相談員として連携を担っていただくことも想定している。取り組みながら相談員のあり方について、引き続き検討していく。

0 次予防については、市だから行えるという取組について、まずは一次から三次予防を取り組みながら、関係機関や当事者の意見を伺っていきたい。

全ての依存症( アルコール、薬物、ギャンブル ) を担えると思われる専門医療機関が、一部の依存症の治療を行わない選定になっている。こういった基準で医療機関の選定を行っているのか。

専門医療機関の選定は立候補があった場合に行っているため、どの依存症を担うかは各医療機関の判断によるもの。選定方法については、神奈川県下の医療体制を含め、四州市( 神奈川県、横浜市、川崎市、相模原市 ) で話し合いたい。

普及啓発について、精神疾患が回復した方を中心としたリカバリーパレードという取組を他自治体で行っている。自治体が中心となっていくものではないが、相模原市で実施することも面白い取組であるので情報提供する。

アルコール依存症を取り扱う専門医療期間が多いが、依存症となる人数が多いのはギャンブル依存症と薬物依存症である。今後、ギャンブル依存症と薬物依存症の専門医療機関は増やす予定はあるのか。

理想としては、かかりつけ医が依存症の初期治療にも対応し、時に応じて専門医療機関と連携することである。人材育成を含め、充実した医療を引き続き目指す。

また、近年は依存症の治療が行えるということが精神科医の一種のステータスとなっているため、ゲーム依存症といった新たな依存症に対しても、身近に治療ができる環境が整っていくと期待している。

正確な統計を利用し支援対象者数の予測をたて、相談拠点としての体制を整えてほしい。

## 報 告

### ( 1 ) 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築推進について

( 資料 2 )

事務局から資料に基づき報告

ピアサポーターは地域移行支援のお手伝いといった立場を目指しての養成なのか。若しくは、それ以降の活躍も想定しているのか。

地域移行支援に関係のあるピアサポーターの養成として行っており、その活動についても、地域移行支援のお手伝いをしていただいている。

報酬はあるのか。

謝礼と旅費（交通費）の予算を取っている。

今後、ピアサポーターを雇用として取り扱う予定はあるか。

当面は地域移行支援をお手伝いいただく予定だが、活動を通じて雇用のあり方を検討していきたい。

### ( 2 ) 措置入院者等の退院後支援の実施状況について ( 資料 3 )

事務局から資料に基づき報告。

退院後支援に同意しない人はこういった人か。

病気ではないと思っている方や既に他の支援を受けている方等からは理解を得ることが難しい。

同意してもらおうよう繰り返して説明を行っているのか。

初回の面接では難しく、複数回面接をさせていただき、信頼関係を築いたうえで同意を得ている。

本人の同意と家族の同意がずれることはあるか。

家族が同意を希望しても、本人が拒否するケースもある。

症状と病状だけで捉えず、本人の立場にたって支援を考えてほしい。

また、本人が何故そのような状況になったのかということを含めて考えていただきたい。

主治医の意見に対し支援者が異論を感じることはあるか。

私たちが支援をする中で感じた不安は、主治医にお伝えするようにしている。

### ( 3 ) 相模原市ひきこもり支援ステーション開設後の実施状況について ( 資料 4 )

事務局から資料に基づき報告。

18～64歳の方が対象とされているが、実際には、こういった年齢層が多いのか。

10代の方は児童相談所等に相談していただいているが、ひきこもり支援ステーションでも相談があれば受けている。速報値では、20代が23人、30代が14人、40代が23人、50代が4人、60代は実績なしとなっている。

本人からの相談はあるのか。

広報等を見て本人からの相談もある。

相談件数や年齢層等の実績が詳細に記載された資料を提示してほしい。

本日の資料については速報値であり支援ケースも日が浅いことから、開設して1年経過した後、事例ケースも含めて資料をまとめていきたいと考えている。

支援の目標はどのように設定しているか。

その人の生き辛さが軽減されることを目標としている。

相模原市内ではひきこもりの方は何人ぐらいいると推計しているか。

平成27年の国の調査から39歳までで3,100人と推計したが、40歳以上の方も多くいることから、国の調査結果を踏まえて再度推計する。

その他

(1) 北里大学病院への北里大学東病院機能の移転・統合について(資料5)

事務局から資料に基づき報告。

質疑なし。

以上

## 相模原市精神保健福祉審議会委員 出欠席名簿

平成31年1月25日(金)

	氏名	所属等	備考	出欠席
1	宮岡 等	北里大学医学部	会長	出席
2	田中 英樹	早稲田大学人間科学学術院		出席
3	藤田 寛之	神奈川県弁護士会		出席
4	住吉 秋次	相模原市医師会		欠席
5	石井 一彦	神奈川県精神科病院協会		出席
6	赤間 芳子	相模原市社会福祉協議会		出席
7	鈴木 秀美	相模原ボランティア協会		出席
8	鈴木 恒介	相模原市障害者地域作業所等連絡協議会		出席
9	中谷 正代	相模原市障害者地域作業所等連絡協議会		出席
10	池田 陽子	神奈川県精神保健福祉士協会	副会長	出席
11	三好 一郎	相模原市障害児者福祉団体連絡協議会		出席
12	大石 真弥	相模原市障害児者福祉団体連絡協議会		出席
13	白旗 和弘	相模原断酒新生会		出席
14	八木 貴弘	公募		出席